

# 麦作情報 No.2

令和6年2月19日  
西松浦農業振興センター

## 1. 気象概況

月	半旬	平均気温		最高気温		最低気温		降水量		日照時間	
		平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 mm	本年値 mm	平年値 時間	本年値 時間
1月	3	5.5	7.4	9.8	13.1	1.4	2.1	12.9	2.0	14.7	29.1
	4	5.3	9.8	9.5	13.6	1.2	6.0	14.6	35.5	14.6	13.3
	5	5.1	4.2	9.4	6.8	0.9	1.3	15.3	6.0	15.7	6.3
	6	5.1	5.2	9.6	10.8	0.8	0.2	16.8	18.5	21.2	29.1
2月	1	5.3	8.9	9.9	11.6	0.9	6.9	12.2	52.5	19.1	4.6
	2	5.7	6.5	10.4	11.5	1.1	2.3	13.1	1.5	20.0	19.4
	3	6.2	9.9	10.9	16.0	1.5	3.9	15.5	1.5	20.7	22.5

- 平均気温は、1月5半旬のみ平年より約1℃低かったものの、おおむね平年並み～4.5℃と高く推移した。
- 降水量は、周期的に降雨があり、1月4半旬に36mm、2月1～2半旬に71mmの降水量となった。1月3半旬～2月3半旬までの降水量は、平年の117%となりやや多い降水量となった。
- 日照時間は、平年の98%となり平年並みであった。

## 2. 生育概況

- 令和6年産大麦の播種は、11月15日頃から始まり播種盛期は11月20日から11月30日となった。
- 本年は、播種時期に降雨が少なく、播種作業は順調に進められた。
- 11月中旬頃に播種された圃場については、すでに茎立期(節間長5mm)を迎えているので、麦踏みの晩限が近づいている。一部圃場では、節間長が2cm(茎立期)に達しているため、麦踏みは行わないようにする。

### 《麦類の生育状況(2月16日時点)》

- 11月中旬に播種された圃場では、現在、茎立期を迎えている。
- 11月下旬に播種された圃場では、現在、7葉期を迎えている。※幼穂長2mm、節間長11mm
- 12月に播種された圃場では、現在、4葉～5葉期を迎えている。



11月22日頃播種圃場の麦(2月16日時点)  
8葉目が展開中の麦(草丈約20cm)  
(節間伸長期、麦踏の晩限が近づいている)

### 3. 今後の管理

#### 1) 排水対策

- 根腐れや湿害防止のために、溝(畦間)を枕部分まで通すなどして、排水溝の整備を入念に行う。
- 暗渠排水が整備されている圃場では、コルゲート管の栓が確実に開いているか確認を行う。
- 麦類の発根力は、最高分けつ期～節間伸長期(概ね7～8葉期頃)が最も高いとされている。根の活力維持のために、排水対策を確実にを行う。



#### 2) 麦踏み

- 本葉3葉期～節間伸長期(草丈25cm程度)までに3～5回程度実施する
- 10日間～2週間の間隔で実施する。

※土壌水分が高い状態で麦踏みを行うと、土が踏み固められてしまい、根の働きが悪くなるので土壌が乾燥した状態(畦間が白く乾いている状態)で必ず行う。

※茎折れや穂の裂傷につながり、穂数が減少するため、茎立ち期以降、麦踏みを行わない

麦踏みの効果：①耐寒性の増加 ②根の伸長促進 ③早立ち防止による凍霜害回避

#### 3) 土入れ

- 本葉5葉期～茎立ち期(草丈30cm程度)までに3回程度行う。
- 分けつ初期に土入れの量が多いと、分けつを抑制することがあるため、生育初期は少なめに、生育に応じて土入れの量を増やしていくことを基本とする。

土入れの効果：①防寒 ②倒伏防止 ③無効分けつの抑制 ④雑草防除 ⑤表面排水

## 4) 肥培管理

- ・ 追肥は 3～4 葉期、穂肥は幼穂長5mm頃に行い、施肥量は地区の暦を参照する。

※地力がある圃場(堆肥連用田など、令和 4 年産麦で倒伏した圃場、大豆あと等)では、麦の生育量および葉色から判断して施用量を減じるなど調整を行う。

## 5) 雑草防除

- ・ 水稻刈り取り後雑草が繁茂していた圃場、耕起前の防除が不十分であった圃場では、スズメノテッポウ、カズノコグサ、タデ類、トゲミノキツネノボタンなどの発生が散見される。
- ・ 土入れによる雑草防除を実施するとともに、こまめに圃場の雑草発生状況を確認し、除草剤の処理時期を逸しないよう対策を徹底する。
- ・ 除草剤効果を保つため、雨前を避けて散布する。(天気予報を確認してください)
- ・ 「ハーモニー75DF」の使用時期は「播種後～節間伸長前まで」なので、使用の際は麦の生育状況に注意する。カズノコグサの防除は播種直後処理剤と「ハーモニー75DF」(カズノコグサが 1～3葉期までに)との体系処理で行う。近年増加しているトゲミノキツネノボタンについても、同様の防除とする。

<カズノコグサとスズメノテッポウの識別法>

- ・ 「根の色」で簡単に識別できる。『カズノコグサ』の根は、『スズメノテッポウ』に比べるとやや「白色」。

	種子の形	根の色
カズノコグサ	ハート型 	白色
スズメノテッポウ	粒 	赤褐色



<トゲミノキツネノボタンの特徴>

- ・ 2 枚目以降の葉は浅い切れ込みが入る(写真左)
- ・ 4 月～6 月にかけて黄色い花をつける(写真右)
- ・ 除草剤について、アクチノールよりもハーモニー75DF の効果が高い。



★除草剤散布後は、以下のことに注意する★

- ①「麦踏み」は、除草剤散布後に薬剤の影響で葉が黄色くなっている場合、麦へのダメージが大きいため、散布後1週間は控える。同様の理由で、麦踏み直後の除草剤の散布も控える。
- ②「土入れ」を、除草剤散布後すぐ行くと、雑草の蒸散作用が抑制され有効成分の根部吸収が妨げられるので散布後1週間は土入れを控える。(特にステージの進んだ雑草の場合は十分に間隔をあける)

○播種後除草剤が散布できていない圃場や、雑草の発生がみられる圃場では、除草剤の処理時期を逸しないように早めに茎葉処理剤を施用する。

●表－除草剤一覧表と使用方法

農薬名	効果のある雑草	使用量 (/10a)	希釈水量 (/10a)	使用時期	総使用回数	使用上の注意事項
ハーモニー75DF	イネ科雑草 ・スズメノテッポウ ・カズノコグサ 広葉雑草 ・ヤムグサ ・ナズナ ・ハコバ ・トゲミキツネノホト	5~10g  カズノコグサには10g/10aとし、 土壌処理剤との	100L	播種後～ 節間伸長前  ※カズノコグサに対しては、 <b>麦1葉期～節間伸長前</b>	1回以内	・播種後にハーモニー細粒剤Fを散布された圃場では使用できません。 ・薬害が生じやすいので周辺作物への飛散に注意。 ・使用器具の洗浄を入念にし、他作物との併用はしない。 ・スズメノカタビラ、カラスノエンドウには効果が弱い(抑制するが枯死しない)
バサグラン液剤	広葉雑草 ※イネ科雑草には効果がない	100~200ml	70~100L	生育期 (大麦は収穫90日前まで)	1回以内	・広葉雑草多発田に使用する。
アクチノール乳剤	広葉雑草 ・ヤムグサ ・カラスノエンドウ ※イネ科雑草には効果がない	100~200ml	70~100L	穂ばらみ期まで (雑草生育初期)	2回以内	・広葉雑草多発田に使用し、ヤムグサ、カラスノエンドウに効果が高い。 ・湿度に左右されず使用できる。 ・散布後、20日程度で枯死。 ・接触剤なので、必ず雑草の茎葉に散布する。 ・気温が高い日の散布は薬害が生じるので注意が必要。

## 7)病害虫防除

### ○網斑病

- ・ 網斑病は、葉や茎に網目状の模様の病斑を示す。
- ・ 網斑病が多発し、上位葉が枯死すると収量が 3割程度減収する可能性がある。
- ・ 網斑病の発生がみられる圃場は、出穂直前～出穂期にチルト乳剤による防除を実施する。

※出穂期を過ぎてしまうと防除効果が劣る

※チルト乳剤の大麦に対する使用回数は1回までなので、農協のヘリ防除を利用する場合は、使用回数を超えないように注意する。出穂期前に臨機防除を行う場合は、シルバキュアフロアブルを散布するなどの対応を検討する。



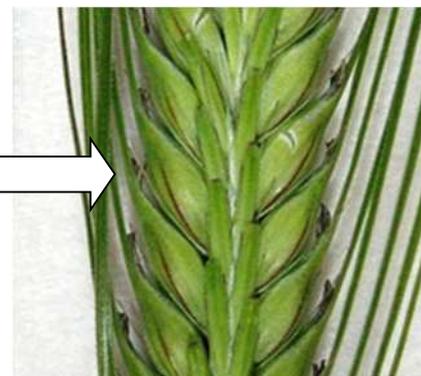
大麦網斑病の病斑

### ○赤かび病

- ・ 麦の品質や収量の低下を防ぐため、薬剤防除を徹底する。
- ・ 大麦の防除時期は、葯殻抽出始め(出穂期の約2週間後)頃となる。

葯殻が、大麦の芒の下に出てくる時期(出穂期の約2週間後)  
 ※葯殻とは開花受粉後に外側に押し出される葯の残骸のことである

- ・ 赤かび病が多発生の場合は、葯殻抽出期防除の1週間後に2回目の防除を実施する。
- ・ また、気温の上昇に伴い、出穂から開花や葯殻抽出までの期間は早まるので、注意する。必ず農薬登録を遵守し、収穫前日数に留意して農薬散布に努める。



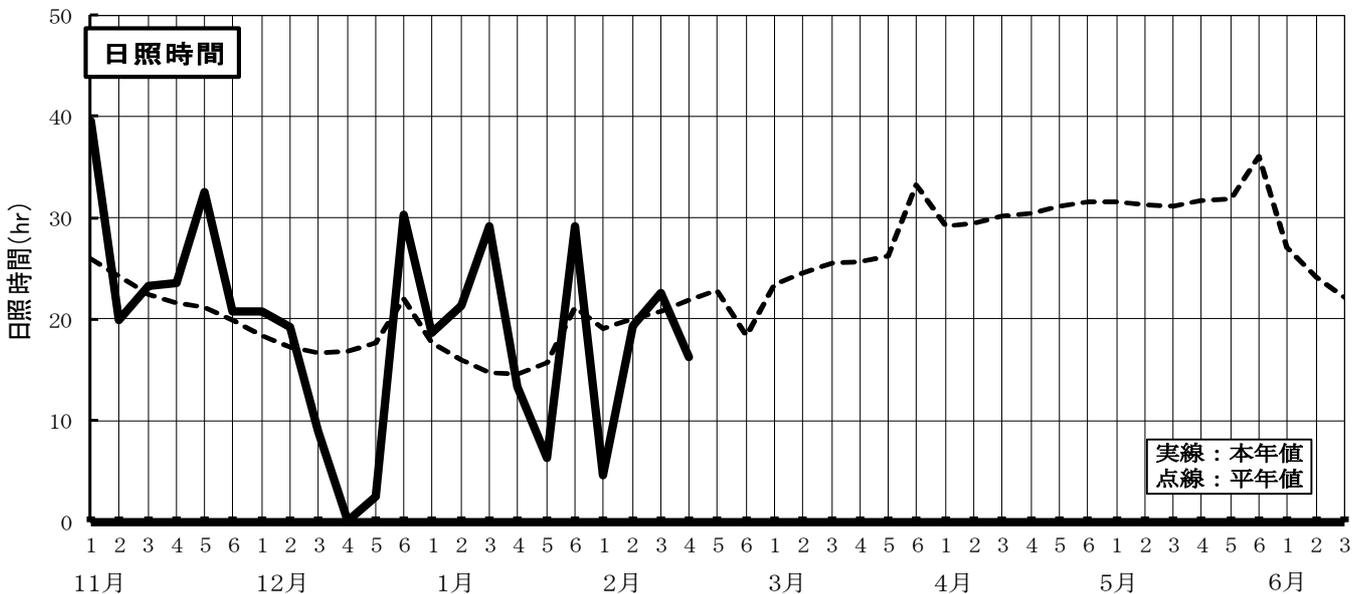
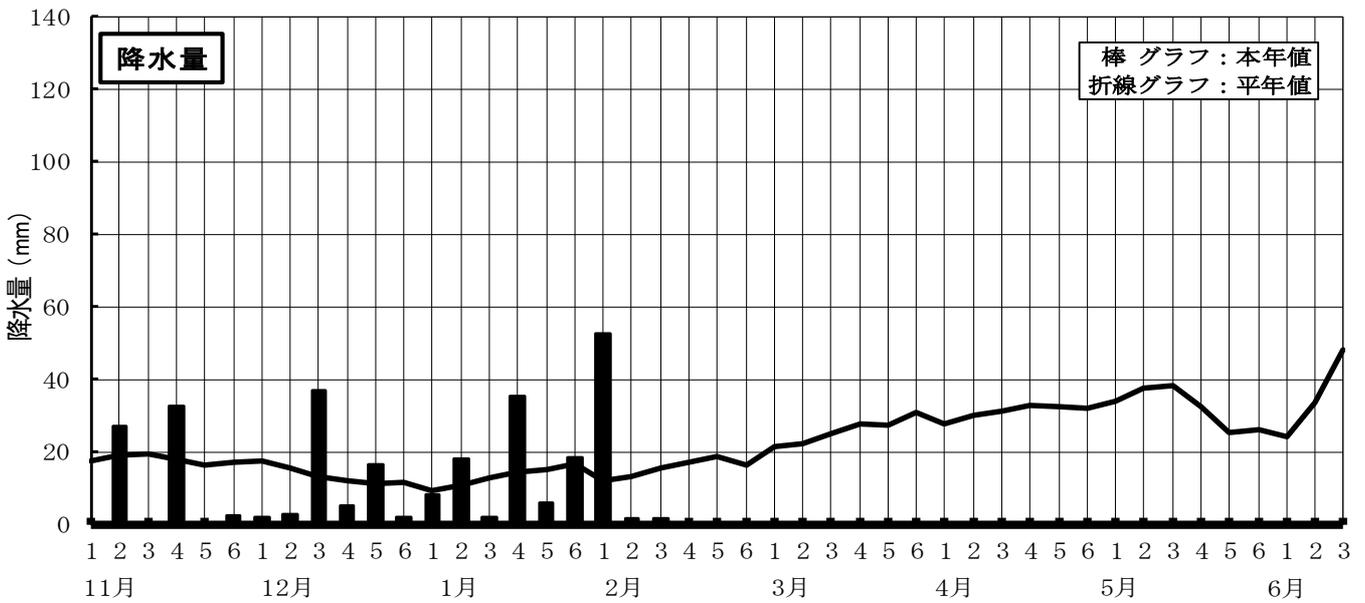
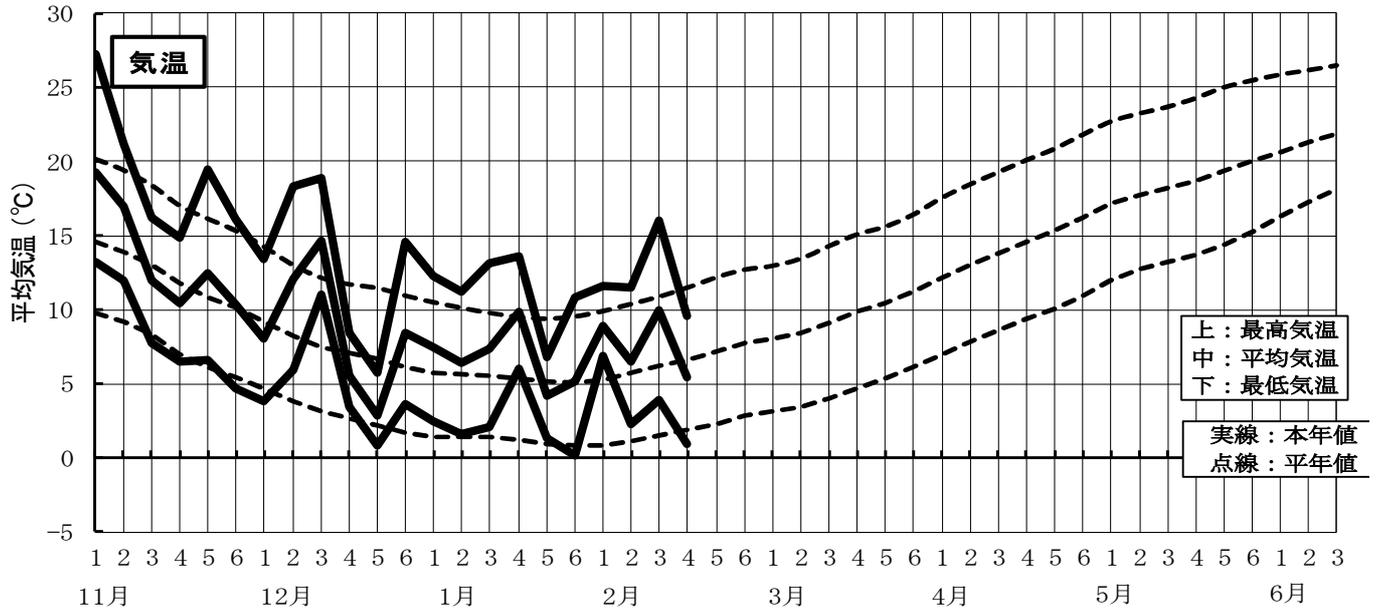
### 【赤かび病 防除薬剤使用基準】(対象作物は大麦)

薬剤名	適用病害虫	希釈倍数	10aあたり 散布量	使用時期	使用回数	散布方法
チルト乳剤 25	赤かび病	1000 ~2000倍	60~150L	収穫21日前まで	1回以内	散布
		8倍	800ml			無人ヘリ
シルバキュア フロアブル	赤かび病	2000倍	60~150L	収穫14日前まで	2回以内	散布
		16倍	0.8L			無人ヘリ
トップジン M 水和剤	赤かび病	1000 ~1500倍	60~150L	収穫30日前まで	3回以内 (出穂期以降は1回以内)	散布
トップジン M 粉剤 DL		—	4kg	収穫14日前まで		散布
トップジン M ゾル		1500倍	60~150L	収穫14日前まで		散布
		8倍	0.8L	収穫21日前まで		無人ヘリ

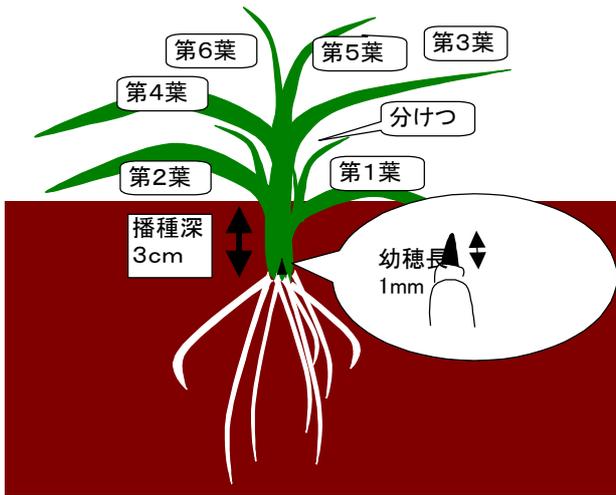
# R6年産麦類生育期間気象グラフ

アメダス観測値 (伊万里)

西松浦農業振興センター



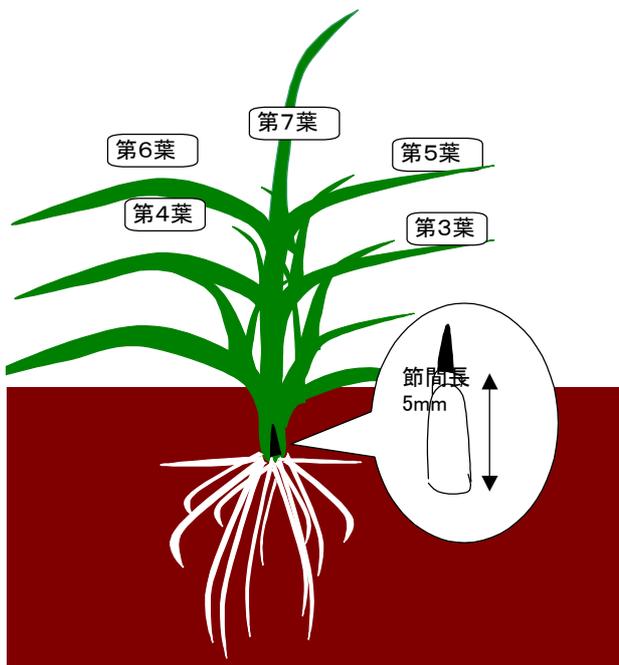
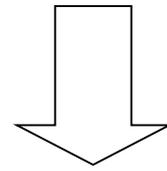
## (例) 麦類の生育ステージ



幼穂形成期

### 幼穂形成期

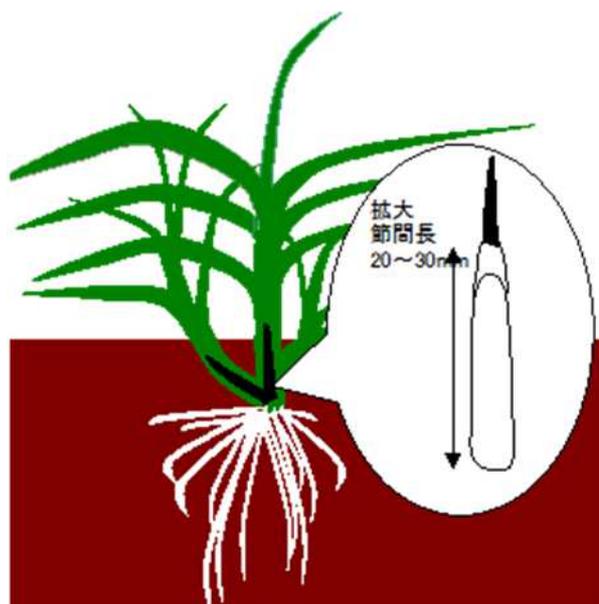
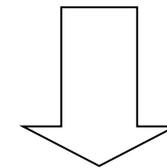
幼穂の長さが1mmとなったとき。  
幼穂は地下部に存在する。  
葉令は5～6葉期。



節間伸長期

### 節間伸長期

下位節が伸長し、幼穂が地下部近くに上が  
ってくる。節間長が5mmとなったとき。  
麦踏みの晩限が近づいてきている。  
葉令は6～7葉期。  
草丈は、20～25cm程度



茎立期

### 茎立期

節間伸長期から2週間程度経過したときで  
節間長が20～30mmとなり、幼穂が地上部  
に上がってきたとき。  
この時期になると麦踏みはできない。  
幼穂凍死の危険性が高くなる。  
茎立ちが早いときは、幼穂保護のために  
土入れを実施する。  
草丈は、30cm程度